

国立市立小中学校校舎非構造部材の「耐震点検」

	天井材		照明器具	建具・ガラス	外壁材	内壁材
	鋼製下地	木製下地				
国立第一小学校	[天井全体の約45%] 特に危険箇所は見られない。 ただし、経年劣化が進んできていることから、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際に、天井下地材を更新する必要がある。	[天井全体の約55%] 特に危険箇所は見られない。 ただし、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際に、鋼製下地材に交換する必要がある。	特に危険箇所は見られない。 ただし、構造体から支持されていない照明器具は、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際に、構造体から支持する必要がある。	建具及びガラスはその殆どが健全である。	外壁面に殆ど損傷は見られない。	目立った構造的ひび割れは発生しておらず、特に問題は見られない。 ただし、経年による塗膜劣化等による細かいひび割れが発生していることから、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際に、内壁面の塗替えが必要がある。
国立第二小学校 ※新校舎改築工事中	[天井全体の約50%] 同上	[天井全体の約50%] 同上	同上	建具及びガラスはその殆どが健全である。 ただし、一部残置されているスチールサッシのガラス固定に硬化性パテが使用されていることから、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際、サッシごと交換もしくは固定材を弾性シーリング等に交換する必要がある。	外壁面に殆ど損傷は見られない。 ただし、一部ひび割れが発生していることから、経過観察を行い、施工範囲や施工条件に応じて、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際に対応するか、単年度予算の修繕で対応するか検討する。	同上
国立第三小学校	[天井全体の約40%] 同上	[天井全体の約60%] 同上	同上	建具及びガラスはその殆どが健全である。	外壁面に殆ど損傷は見られない。	同上
国立第四小学校 ※令和3～4年度工事実施	[天井全体の約15%] 同上 →対策済	[天井全体の約85%] 同上 →対策済	同上 →対策済	早急にサッシを交換することが望まれる。 殆どが新築当時からスチールサッシが設置されたままであり、建付けが悪いものやサッシ自体から錆汁が発生している箇所もあることから、保全計画等で早急な改善計画を立案する必要がある。 →対策済	早急に外壁面の損傷を改修することが望まれる。 全体にわたって、ひび割れや浮き等が発生していることから、保全計画等で早急に改善計画を立案し改修工事を実施する必要がある。 →対策済	同上
国立第五小学校 ※令和6～7年度工事予定	[天井全体の約30%] 同上	[天井全体の約70%] 同上	特に危険箇所は見られない。 平成28～30年度の学校施設修繕費で、普通教室の照明器具をLED化し、器具を構造体から支持し、対策済。その他教室については、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際に、構造体から支持する必要がある。	サッシ自体を交換、もしくはガラス固定材を交換することが望まれる。 殆どが新築当時からスチールサッシが設置されたままであり、ガラス固定に硬化性パテが使用されていることから、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際、サッシごと交換もしくは固定材を弾性シーリング等に交換する必要がある。	比較的早い段階で外壁面の損傷を改修することが望まれる。 全体にわたって、ひび割れや浮き等が発生していることから、保全計画等で比較的早く改善計画を立案し改修工事を実施する必要がある。	同上
国立第六小学校 ※平成30～令和元年度工事実施	[天井全体の約35%] 同上 →対策済	[天井全体の約65%] 同上 →対策済	特に危険箇所は見られない。 ただし、構造体から支持されていない照明器具は、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際に、構造体から支持する必要がある。 →対策済	建具及びガラスはその殆どが健全である。 ただし、一部残置されているスチールサッシのガラス固定に硬化性パテが使用されていることから、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際、サッシごと交換もしくは固定材を弾性シーリング等に交換する必要がある。 →対策済	外壁面に比較的損傷は見られない。 ただし、一部ひび割れが発生していることから、経過観察を行い、施工範囲や施工条件に応じて、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際に対応するか、単年度予算の修繕で対応するか検討する。 →対策済	同上
国立第七小学校 ※平成28～29年度工事実施	[天井全体の約45%] 同上 →対策済	[天井全体の約55%] 同上 →対策済	同上 →対策済。	建具及びガラスはその殆どが健全である。	外壁面に殆ど損傷は見られない。 →対策済	同上
国立第八小学校 ※令和5～6年度工事予定	同上	木製下地の使用はなし	特に危険箇所は見られない。 ただし、構造体から支持されていない照明器具は、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際に、構造体から支持する必要がある。	同上	外壁面に比較的損傷は見られない。 ただし、一部ひび割れが発生していることから、経過観察を行い、施工範囲や施工条件に応じて、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際に対応するか、単年度予算の修繕で対応するか検討する。	同上
国立第一中学校	[天井全体の約15%] 同上	[天井全体の約85%] 特に危険箇所は見られない。 ただし、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際に、鋼製下地材に交換する必要がある。	同上	現在はアルミサッシが設置されており、建具及びガラスはその殆どが健全である。年に1度の建具点検により、日々の安全を確保している。	早急に外壁面の損傷を改修することが望まれる。 →平成27年度に対策済	同上
国立第二中学校	[天井全体の約35%] 同上	[天井全体の約65%] 同上	特に危険箇所は見られない。 殆どの教室で照明器具は構造体から支持されている。ただし、一部使用頻度の少ない部屋で支持されていないので、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際、構造体から支持するようにする。	建具及びガラスはその殆どが健全である。	外壁面に殆ど損傷は見られない。	同上
国立第三中学校 ※平成28～29年度工事実施	同上 →対策済	木製下地の使用はなし	特に危険箇所は見られない。 ただし、構造体から支持されていない照明器具は、今後の保全計画で立案する建替えや改修等の大規模工事の際に、構造体から支持する必要がある。 →対策済。	同上	同上	同上